

病虫害発生予察注意報第 2 号

佐賀県

作物名：果樹全般

病虫害名：果樹カメムシ類



1. 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1) ヒノキ樹での発生状況（県内 14 地点、9 月 4～8 日調査）

(1) ヒノキ球果の平均口針鞘数は 18.8 本/果と急激に増えており、離脱の目安となる 25 本/果に到達した地点もある（図 1、表 1）。

(2) ヒノキ樹上における本虫の平均成幼虫数は 37.0 頭/5 枝であり、8 月中下旬調査（19.5 頭/5 枝）から急増している（図 2、表 1）。

2) 予察灯及び果樹園の状況

(1) 県内 2 地点に設置している予察灯において、果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）の誘殺虫数が 8 月 3 半旬（8 月 21～25 日）以降増加しており、特に、8 月 6 半旬以降は平年より多くなっている（図 3）。

(2) 9 月上旬に、一部の果樹園では果樹カメムシ類の飛来が確認されている。

3) 今後の発生予想

(1) 球果の口針鞘数及びヒノキ樹での寄生の状況から、ヒノキ球果からの離脱が始まっている地域があると考えられ、今後、果樹園への飛来数が増加するおそれがある。

(2) 九州北部の向こう 1 か月の気象予報（福岡管区气象台 9 月 4 日発表）では、気温は平年より高いと予想されており、本虫の発生に好適な条件であることから、果樹園に飛来し被害を生じるおそれがある。

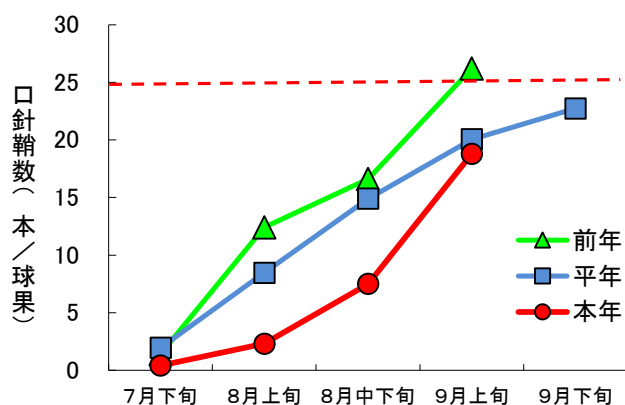


図1 ヒノキ球果上の果樹カメムシ類による口針鞘数

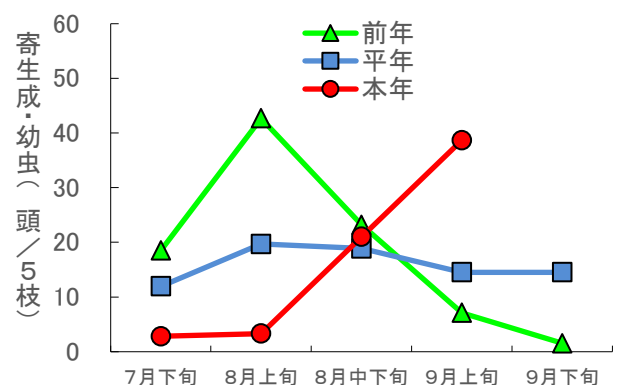


図2 ヒノキ樹上での果樹カメムシ類の寄生数
※球果結実部を調査

表1 ヒノキ球果における果樹カメムシ類成幼虫数及び口針鞘数

No.	調査地点	ヒノキ球果における 寄生状況 ¹⁾			ヒノキ球果における 寄生状況 ¹⁾			ヒノキ球果 ²⁾ 着果程度	口針鞘数 ³⁾			
		8月中下旬			9月上旬				7月 下旬	8月 月上旬	8月 中下旬	9月 月上旬
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計					
1	上 峰 町 堤	0	13	13	2	3	5	やや少	0.0	－	1.1	5.5
2	神 埼 市 脊 振 町 倉 谷	2	6	8	44	5	49	やや多	0.5	－	1.4	12.2
3	小 城 市 三 日 月 町 織 島	5	1	6	41	3	44	やや多	0.3	0.0	2.4	12.1
4	唐 津 市 太 良	16	2	18	34	1	35	多	0.2	0.2	5.9	8.7
5	唐 津 市 浜 玉 町 平 原	2	1	3	22	0	22	多	0.0	0.0	0.2	3.7
6	唐 津 市 北 波 多 成 淵	14	36	50	89	4	93	やや多	0.1	0.3	5.7	29.9
7	伊万里市大川町大川野	13	26	39	62	14	76	やや多	0.6	2.0	9.5	33.1
8	伊万里市南波多町原屋敷	11	26	37	22	5	27	中	0.3	0.2	9.6	19.8
9	伊万里市南波多町笠椎	5	17	22	22	2	24	中	0.0	－	7.9	16.8
10	多 久 市 南 多 久 町	13	0	13	19	2	21	中	0.9	2.7	11.5	21.0
11	鹿 島 市 古 枝	6	3	9	28	2	30	多	1.7	5.8	6.6	19.3
12	鹿 島 市 嘉 瀬 の 浦	17	6	23	14	10	24	多	0.5	7.9	25.7	28.5
13	太 良 町 江 岡	5	1	6	8	15	23	中	0.4	0.6	9.9	27.9
14	太 良 町 大 浦	19	7	26	44	1	45	多	0.4	5.3	8.7	25.7
	平 均	9.1	10.4	19.5	32.2	4.8	37.0	やや多	0.4	2.3	7.5	18.8
	平 年	－	－	18.9	－	－	14.5	やや少	1.9	8.5	14.9	20.1
	前 年 (R6年)	－	－	23.3	－	－	7.1	少	1.4	12.4	16.6	26.2

1)たたき落としによる調査

2)ヒノキ球果着果程度：福岡農総試の達観調査法に基づいて調査

- ・極少：一部の木では上部にも球果が見られるが、多くの木では上部にも球果がない。
- ・少：球果が全くない木も見られるが、多くの木の上部には球果がある
- ・やや少：球果が全くない木も見られるが、多くの木の上部には球果があり、一部の木では中央部にもみられる
- ・中：中央部まで球果が見られる木が多い
- ・やや多：多くの木では中央部までたくさんの球果が見られ、一部は下部にも球果がある
- ・多：下部まで球果が見られる木が多い
- ・極多：ほとんどの木で下部までたくさんの球果が見られる

3)口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ球果が餌として不適となりカメムシがヒノキ球果より離脱する傾向

※ヒノキ球果における寄生虫数、口針鞘数は地域等で差が大きいため、各地点の調査結果が必ずしも当該地域全体の状況を示すものではない。

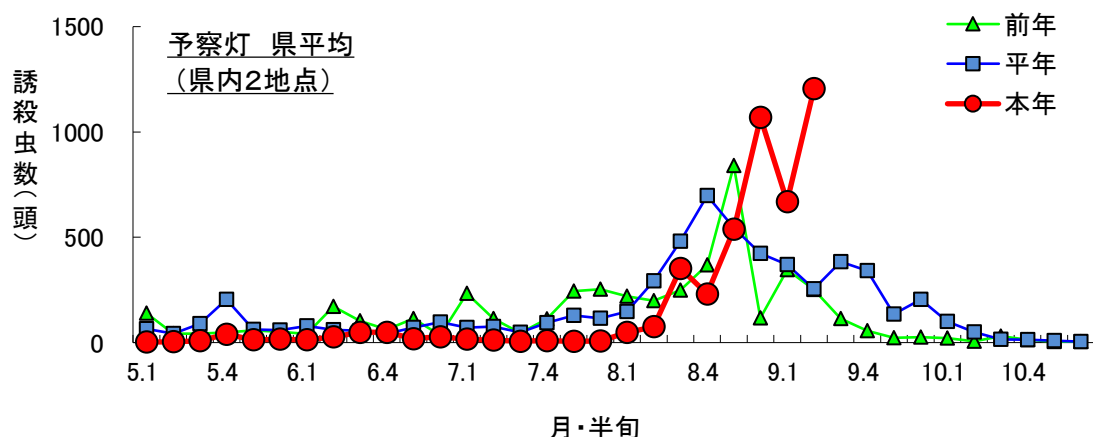


図3 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

3. 防除対策

- 1) 飛来状況は、地域、園地、園地内の場所によって異なるため、園内外をよく観察し、早期発見に努める。
- 2) 飛来が確認されたら、合成ピレスロイド系薬剤又はネオニコチノイド系薬剤で直ちに防除を行う。両系統の薬剤の残効期間は10～15日程度である。なお、ネオニコチノイド系薬剤は、30～50 mm程度の降雨で防除効果が低下するため、散布後に同雨量以上の雨が降ったら再散布する。
- 3) 本虫は、夜行性で日没直後からしばらくの間に最も盛んに飛翔し園内に侵入する。そのため、果樹園に侵入する直前の夕方に薬剤を散布すると効果が高い。また、地域全体で一斉防除を行うと高い効果が得られる。
- 4) 施設栽培では、開口部に防虫ネット（4ミリ以下）を設置する。
- 5) 今後の発生状況は当センターが発表する各種情報及びホームページを参考にし、防除対策の詳細は「佐賀県病虫害総合防除計画」を参照する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病虫害総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セQRコード*



防除計画 QRコード*

